

第2学年 保健体育科学習指導案

日時 平成17年11月1日(火)5校時
学級 2年1、2組 女子 40名
場所 第1体育館
指導者 教諭 千葉 美佳

1、単元名 ダンス「ソーラン節」

2、単元について

(1) 教材観

ダンスは個人や集団で踊り、表現したり交流したりする事が楽しい運動である。イメージを自由に表現して踊る「創作ダンス」、伝承された踊りの踊り方を身に付けて踊る「フォークダンス」、現代的なリズムに乗って動きを工夫して自由に踊る「現代的なリズムのダンス」を踊ることができるようになることをねらいとし、自己の能力に適した課題に取り組んで表現したり、みんなと一緒に踊ったりする運動である。

本単元で扱う「ソーラン節」はこの3つの要素がすべて含まれている踊りである。生活の中から生まれ伝承されている日本の踊り方を身につけると同時に、その踊りの持つ意味を理解する事でさらにみんなと踊る楽しさや喜びを味あわせたい。そして現代的なリズムでのソーラン節の曲に合わせて動きやステップなど自由に工夫し、心と体を弾ませながらリズムカルに踊る楽しさを味あわせたい。自己の感じ方や工夫を率直に表現し感じを込めて踊る事ができる力や、互いの違いの良さを認め合って練習することにより課題を解決する力を身につけさせたい。

(2) 生徒の実態

全体的におとなしく、決められた課題や与えられた運動メニューを着実にやっていく生徒が多い。しかし、人間関係が希薄で誰とでも仲良く関わりながらグループ活動を行うのが苦手な生徒が多い。自分の気の合う友人とのみ活動するという傾向が強い。また、全体的に筋力が弱いことと柔軟性が低い。そのため、パワフルでダイナミックな踊りと、優雅な表現力にやや欠ける。

ソーラン節を踊るのが好きという生徒が多く、各学級のソーランリーダーを中心に意欲的に取り組んでいる。

(3) 指導観

ダンスはリズムによって、仲間と共に動きを共有し、共感しながら踊ることにより楽しさを味わう事ができる。個人を単位にした運動であると同時に、友達と踊る集団的な運動であるので一人一人の個性を生かしながら互いの良さを認め合い、協力して練習したり、交流し踊る楽しさや喜びを共有する事ができる。そのためには心も体も開放して踊る環境作りが重要と思われる。選曲の仕方、グルーピングの方法、リーダー育成を通して互いを認め合う事ができる人間関係作りを行っていききたい。

また、技能面においては、一つ一つの動作を正確に行ったり、集団でダイナミックかつ表現豊かに踊るためには、個人個人の基礎体力が備わっていなければならない。まず基礎体力の向上を重点に置き、自分の体や補助道具を使用しての動き作りを工夫して行うことにより、基礎体力が向上し、一つ一つの踊りに力強さや優雅さが表現できると思われる。そこで基礎体力を向上させることにより質の高いソーラン節を表現できると思われる。

さらに、発表会を数多く設定し、ビデオなどで他の学級の作品を鑑賞することにより、他のグループの動きや構成など良さを学び合い、自他の理解を深める事で技術の向上を図ると共に、意欲的に活動させたい。

3、単元の目標及び単元の評価計画（6時間扱い）

単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適した課題を持って創作ダンスやフォークダンス、現代的なリズムのダンスを行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができる。 ・互いの良さを認め合い、協力して練習したり発表したりすることができる。 ・グループの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や発表の仕方を工夫する事ができるようにする。 	
単元の観点別評価表	運動への関心・意欲 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーラン節のリズムに関心を持ち、仲間とともに踊る楽しさや喜びを味わうようにすすんで取り組もうとする。 ・ウォームアップを意欲的に行い、心と体を解放して踊る楽しさを味わおうとする。 ・互いのよさを認め合い、協力して、練習したり、交流したりしようとする。
	運動についての思考・判断	・グループや自己の能力に適した課題を解決するために、いろいろなリズムや動き方を工夫して練習する。
	運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーラン節のリズムにのって、心と体を弾ませながらリズムカルに踊ることができる。 ・仲間とともに工夫したリズムや動きを共有し、共感しながら、踊ることができる。
	運動についての知識・理解	・ソーラン節のルーツやリズムや動きの特徴を知る。

時数	学習内容	評価規準	観点	評価場面 (方法)	具体的評価規準		
					(A) 十分満足できる	(B) おおむね満足できる	努力を要する生徒への支援
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的なリズムのダンスに関心を持ち、自主的にグループを決めたり、学習計画を立てることができる。 ・ソーラン節のルーツやリズムや動きの特徴を知る。 ・練習・計画・鑑賞・学習のまとめに学習カードを記録を活用する。 	関 ・ 意 ・ 態	・ソーラン節の特徴やねらい、学習内容、学習の進め方、グループ編成などを知る場面(行動観察・発言・資料・学習プリント)	・ソーラン節の特性に強い関心を持ち自ら資料を活用してソーラン節の歴史や踊り方等を調べ、グループや自分の課題を持って学習したりグループの決め方を話し合ったり、楽しい雰囲気を作りすすんで取り組もうとしている。	・ソーラン節の特性に関心を持ち、グループや自分たちの課題を設定し、ソーラン節について学習したり、自分たちですすんでグループを決めようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組めるグループを選択させる。 ・苦手とする分を考えさせる。
2	ダンスウォームアップ	・現代的なリズムのウォームアップを意欲的に行い、心と体を開放して踊る楽しさを味わおうとする。	関 ・ 意 ・ 態 ・ 技	・ダンスウォームアップを行う場面(行動観察・発言・学習プリント)	仲間ですすんで声をかけ、2人組みやグループでダンスウォームアップを行い、心と体を弾ませて、お互いの動きを真似て踊るなどすすんで楽しもうとしている。	仲間と関わりながらすすんでダンスウォームアップを行い、心と体をほぐして、踊る楽しさを味わおうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つの動きの目的を理解させる。
3	・ソーラン節「南中ソーラン」	・協力して、練習したり、交流したりしようとする。	関 ・ 意 ・ 態 ・ 技	・ソーラン節のリズムにのってグループや学級で踊る場面。(行動観察・発言・実技・学習カード)	・音楽のリズムにのって、心と体を解放し、仲間と共感しながら心と体を弾ませて楽しく踊ることができる。	・仲間とリズムや動きを共有し、心と体を弾ませて楽しく踊ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や仲間の指示で一つ一つの動き作りに取り組ませる。

4	・ソーラン節「南中ソーラン」	・互いに教え合い、協力して、練習したり、交流したりしようとする。	関・意・態・技	・ソーラン節のリズムによってグループや学級で踊る場面。 ・動きを発表・交流し合い、学習のまとめをする場面。 (行動観察・発言・実技・学習カード)	・音楽のリズムによって、心と体を全面的に開放し、仲間と共感しながら心と体を弾ませて楽しく踊る事ができる。 ・互いに発表しあい、教えあって一緒に楽しく踊るなど、発表や交流の仕方を工夫している。	・仲間とリズムや動きを共有し、心と体を弾ませて楽しく踊る事ができる。 ・発表や交流の仕方を工夫し、動きの共有化を図り、踊る楽しさを共感している。	・教師や仲間の指示で一つ一つの動き作りに取り組みさせる。
5 本時	・ソーラン節「南中ソーラン」	・互いのよさを認め合い、協力して、練習したり、交流したりしようとする。	関・意・態・思・技	・ソーラン節のリズムによってグループや学級で踊る場面。 ・動きを発表・交流し合い、学習のまとめをする場面。 (行動観察・発言・実技・学習カード)	・音楽のリズムによって、心と体を全面的に開放し、仲間と共感しながら心と体を弾ませて楽しく踊る事ができる。 ・互いに発表しあって、よさを認め合い、教えあって一緒に楽しく踊るなど、発表や交流の仕方を工夫している。 ・グループや自分の課題の取り組みや達成状況を積極的に話し合い、学習カードの記録などを活用して的確に判断している。	・仲間とリズムや動きを共有し、心と体を弾ませて楽しく踊る事ができる。 ・発表や交流の仕方を工夫して動きのよさを認め合い、動きの共有化を図り、踊る楽しさを共感している。 ・グループや自分の課題の達成状況をカードの記録などを参考にして判断している。	・教師や仲間の指示で一つ一つの動き作りに取り組みさせる。 ・教師の助言により学習の取り組みや課題達成の状況を判断させる。
6	・発表会	・互いによさを認め合い、リズムや動きを共有して楽しく踊るなど、発表や交流の仕方を工夫する。	思・技	・動きを発表・交流しあい学習をまとめる場面。	・互いに発表し合って、良さを認め合い、見ている者もリズムをとって発表をし、グループでまとめた動きを教え合っ一緒に楽しく踊るなど、発表や交流の仕方を工夫している。	・発表や交流の仕方を工夫して動きのよさを認め合い、動きの共有化を図り、踊る楽しさを共感している。	発表や交流の仕方を工夫させる。

4、本時の指導

(1) 研究主題との関わり

ア 基礎基本の重視

- ・ 導入場面で基礎体力向上につながる運動を継続することができる。
- ・ 意欲的にグループやパートナーと協力しながらソーラン節の動き作りができる。

イ 課題解決を図るための指導過程の工夫

- ・ 音楽に合わせて学級でダンスウォーミングアップをすることで心身共々心を開放しながら基礎体力を向上し、学級の団結力も高めるようにした。

- ・ 小グループ化し、それぞれのグループに学級のソーランリーダーを配置し、すべてリーダーが指示を出しながら活動を組織していく自治活動方式を取り入れることで、学級やグループの課題を自分達の力で発見し解決していく。
 - ・ 毎時間、発表会を行うことで問題意識や、他グループの良さを認識し自分達の踊りに繁栄させる事ができる。
- エ 評価を生かした指導の工夫
- ・ 一つ一つの踊りの意味を充分理解させ表現力豊かに踊る事に重点を置き、毎時間、ソーランリーダーを中心にお互いに教えあうことによって練習に取り組みさせる。
 - ・ 自己評価を取り入れ、自分自身の課題を明確に次時への意欲づけとした。
- オ 定着を図る工夫
- ・ ダンスウォーミングアップの中で踊りの基礎となる動きを取り入れ、毎時間行う。

(2) 展開

段階	学習過程	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	課題設定	1、挨拶	・正しい姿勢で元気に挨拶をさせる。	・すすんで行き、心と体をほぐして行っているか。 (関・意・態)
		2、ダンスウォームアップ ・準備体操 ・筋力トレーニング 腹筋、背筋、ジャンプ、腕立て伏せ、スクワット	・体のどの部位の動きなのかリーダーに指示を出し、その動きに合わせ、一つ一つの動きを大きな動作で正確に行わせる。	
展開 33分	課題の追究 課題の解決	動きの意味を意識しながらリズムにのって踊ろう。		・仲間とリズムや動きを共有し、心と体を弾ませ、踊れたか。(技) ・動きのよさを認め合い、動きの共有化を図り、踊る楽しさを共感している。(思・判)
		3、動き作り ・地引綱 ・波 4「南中ソーラン」練習 ・学級ごと 5、発表会	・一つ一つの踊りの意味を復習させる。 ・踊りの意味を意識させることで、感情を込めて力強く踊れるようにさせる。 ・学級ごとに発表会の仕方をリーダーに工夫させ、動きのよさを認め合わせる。	
終末 7分		6、反省 ・自己評価 ・感想発表 7、挨拶	・課題の達成状況を学習カードの記録用紙に書かせる。 ・元気に挨拶をさせる。	・学級や自分の課題の達成状況を学習カードの記録用紙に書き込む事できる。(思・判)